

令和3年度 中城ごさまる科 評価の結果

教育課程特例校 中城村立中城小学校

1 目的

本村の幼小中学校において、地域の歴史・文化に係る地域素材を積極的に教材化し、特に本村が有する世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つ「中城城跡」とその城主「護佐丸」を素材に取り上げ、「中城ごさまる科」の授業とともに本村の文化を学ぶことで、中城の歴史と文化、世界遺産を有する本村について触れ、郷土の理解を深めることや郷土への誇りと愛着を育み、自らの目標に向かって学び続ける児童の育成を目指す。

2 概要・実績

- ・本事業は、村内全ての小学校を教育課程特例校として申請し、平成26年度から「中城ごさまる科」を導入して8年目を向かえる。副読本・指導書・教材DVD等を作成し、故郷の歴史・文化・自然を通じた学習を行う。
- ・中城ごさまる科の児童アンケートでは、「地域の歴史を学ぶことで、日本史など広く歴史を学ぶ意欲の向上に繋がった(93%)」「自分の住む町に親しみがある(95%)」「自分で調べたことを自分の言葉で発表できた(92%)」と回答し、教師の振り返りアンケートでも「大変よかった」「よかった」との肯定的意見(98%)だった。

3 村内小学校の共通した効果及び成果

- ・年4回の中城ごさまる科の担当者を対象とした研修を実施し、各校の取り組みの方向性と学習進度を確認できたことで、学校が主体的に取り組むことができた。
- ・学習内容を新学習指導要領に沿った内容に整理し、文部科学省へ変更手続きを行った。そのことによって、学習内容が6年間を通して系統化されて学習しやすくなった。
- ・指導主事が各学校へ訪問し直接助言ができたことで、中城ごさまる科の学校間差がなくなり、中城ごさまる科の年間指導計画の見直しや、「中城教育の日」での発表方法等の情報交換がスムーズにできたことで、授業改善に生かすことができた。
- ・三学期に成果報告会を実施し、子供達の学びを披露できたことで、「中城ごさまる科」の取り組みの理解が深まった。

4 児童の興味・反応、保護者の反応など

【1年】

- ・ごさまる歴史資料図書館で石積みパズルの体験をしたことで「実際の城壁を見てみたい」と興味・関心を高めることができた。また、世界遺産についても興味を持ったようで、後日、資料図書館で行われた世界遺産展に家族で足を運んだり、休日を利用して実際に中城城跡を訪れた児童もいた。

【2年】

- ・護佐丸に興味関心があり、意欲的に授業で調べたり、自分の思ったことを書くことができた。
- ・自分の幼少期と比べて、親しみを持ちながら学ぶことができた。
- ・わかったことや絵を工夫してまとめ、発表できた。

【3年】

- ・中城城跡の見学や調べ学習を通して、世界遺産である中城城跡に対する誇りや、中城に住む者としての役割を感じることができたように思う。
- ・見学できなかった護佐丸の墓やハンタ道等にも興味を持ち、資料で調べる姿も見られた。
- ・総合的な学習の時間の「中城村を知ろう」とも重ねてまとめにしたため、村指定文化財等にも、関心を示し、調べる姿が見られた。
- ・調べて分かったことを、一生懸命、新聞にまとめていた。
- ・仕上げた新聞を家に持ち帰り、保護者の感想を付箋紙に書いてもらい、喜んでいた。
- ・コロナ禍で、授業参観での中城ごさまる科の授業を見ることができなかった。

【4年】

- ・総合的な学習の時間とリンクさせて、横断的な学習をすることによって、中城村の良さを多面的に学ぶことができた。
- ・副読本で学んだことを新聞にまとめることによって、学習の定着を図ることができた。
- ・本村の文化面での良さを学ぶことによって、児童が郷土の誇りを感じることができた。

【5年】

- ・コロナ禍での取り組みだったため、例年通りの学習が困難であった。

- ・最終の「朗読劇・中城と護佐丸」は練習等に時間がかかったため、次年度は早めの取り組みが必要である。
- ・副読本から、世界遺産「中城城跡」の築城までの歴史的背景やその素晴らしさについて再度学ぶことができた。更に、それを守り続けている「グスクの会」の方々の存在と活躍を知ることができた。そのことにより、自分たちの住む中城村への誇りや思いを感じさせることができた。
- ・「城主・護佐丸」をより身近に感じ取ることができた。また、「中城城」との築城の相違点に着目することによって、今後、さらに「中城城跡」を調べていきたいと意欲を高めることができた。
- ・護佐丸の人物像や個性豊かな登場人物やについて、それぞれが思いをはせながら、成果報告会に取り組むことができた。

【6年】

- ・低学年でも見学しているようだが、学習を継続して進めているので、是非、高学年でも「中城城跡」を見学した方が良い。違う見方や考え方になってくるはずである。
- ・時間的に可能であれば、「中城城主、護佐丸」を学ぶことで見えてくる、郷土沖縄の歴史や文化、人物等についても、調べさせたい。

【保護者・地域からの感想】

- ・とても難しい言葉を使ったり、お母さんが分からなかったこともあったり、たくさん調べて、とても分かりやすく、まとめてあると思います。字も大きく、丁寧ですばらしいです。
- ・各学年の系統性を共通確認できていなかったため、学んだことをどのようにして次の学年へと繋げていけばいいのか悩みました。
- ・コロナ禍で、副読本の学習（1学期）と中城ごさまる歴史資料図書館常設展示室の見学（3学期）が、かなり空いてしまった。
- ・授業参観での発表会ができず残念だった。
- ・小学校において「中城ごさまる科」を導入し地域の歴史や琉球史を学ぶ機会があるということは、地域への愛着・誇りをもつということで大変評価できる。
- ・先駆的な取り組みで世間の関心も高く、護佐丸歴史資料図書館でDVD教材の鑑賞ができるので評価できる。

5 学校関係者の評価

- ・年4回の中城ごさまる科の担当者を対象とした研修を実施し、各校の取り組みの方向性と学習進度を確認できたことで、学校が主体的に取り組むことができた。
- ・学習内容を新学習指導要領に沿った内容に整理し、文部科学省へ変更手続きを行った。そのことによって、学習内容が6年間を通して系統化されて学習しやすくなった。
- ・指導主事が各学校へ訪問し直接助言ができたことで、中城ごさまる科の学校間差がなくなり、中城ごさまる科の年間指導計画の見直しや、「中城教育の日」での発表方法等の情報交換がスムーズにできたことで、授業改善に生かすことができた。
- ・3月に、成果報告会を実施し、子供達の学びを披露できたことで、「中城ごさまる科」の取り組みの理解が深まった。

6 【課題と対応策】

（課題）教職員の転出などにより、「中城ごさまる科」の理解に時間がかかる。

対応策→教育委員会による「中城ごさまる科」の研修を各校で実施し、更なる充実を図っていく。

（課題）本事業スタート時の状況と違い、協力団体が減ってきている。

対応策→「中城ごさまる科」の教材本を改定し、学校が主体的に取り組めるよう実施方法の見直しをさらに進めていく。